

部活動を含めて屋外での活動における 異常気象(雷・ゲリラ豪雨)時の対応について

1. 認識

目や耳で確認できる情報	気象台・市役所からの情報
☐ 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる。 ☐ 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。 ☐ 近くで雷が落ちる。	☐ 警報・注意報の発表 ☐ 注意喚起のFAX ☐ 気象庁のHP等のコンテンツ活用

2. 報告及び初期対応

①教務主任・部活担当・安全主任・養護教諭・生徒指導主事、もしくは管理職に報告する。 ②小さくても雷鳴が聞こえたら、屋外活動を直ちに中止し、生徒を屋内に避難させる。
--

3. 対策検討

①対策部会を組織	管理職・教務主任・部活担当・安全主任・養護教諭・生徒指導主事のうち3名以上で組織。
②緊急指示(初期対応指示)	必要に応じて全校放送で生徒の屋内絵の避難や教職員の誘導について呼びかける。 →教職員は速やかに生徒を屋内へ避難させる。
③気象情報の収集と対応検討	気象庁のHP等のコンテンツ(雨雲の動き:雨雲ナウキャスト、雷ナウキャストなど)を活用し、情報を収集し、部活動などの活動の継続の可否、下校時刻の変更について検討する。

4. 対応

部活動を含む活動	天候の回復が見込める時	20分程度で雷雲が移動し、今後も落雷の危険性が低いと判断できる場合、活動再開を放送等で全校に知らせる。
	天候の回復が見込めない時	引き続き屋内へ避難を継続することと合わせて、雨雲や雷雲が移動する予想時刻と「すぐに帰らないこと」を全校に放送で伝える。
下校時刻	生徒への対応	生徒の安全が十分確保できないと判断した場合は、下校時刻を遅らせ、生徒を指示あるまで安全な場所で待機させる。
	保護者への対応	下校時刻を変更する理由と変更後の時刻を「安心メール」で知らせる。

※予報や注意喚起等で事前に危険な状況が予測されるときは、対策部会を事前に組織し、検討のうえ、部活動を含む放課後の活動等を中止し、下校時刻を早めるなどすることも考えられる。

※激しい雨などにより、浸水、土砂災害等を含めた被害が心配されるときは、各学年で分担し、危険個所のパトロールにあたる。

①日吉・赤坂・ニューハイツ～手原駅周辺(1年部)

②伊勢落・林田道沿い・東小前地下道～大橋・宅屋(2年部)

③林国道交差点・野洲川大橋交差点・野洲川公園体育館付近～出庭・辻・葉山小周辺(3年部)

<参考> 防災学習等の中で周知していくこと
ゲリラ豪雨等について

ゲリラ 豪雨の前兆

真っ黒な雲が近づいてきた

雷の音が聞こえてきた

急に冷たい風が吹いてきた

ハザードマップ 確認するポイント(ゲリラ豪雨)

- ☒ 複数の避難場所
- ☒ 複数の避難経路
- ☒ 浸水・土砂災害の危険性が高い場所

河川の増水が発生した場合の避難経路も確認しておきましょう

ゲリラ豪雨 街中の危険箇所

地下・水辺

浸水した道

アンダーパス

ゲリラ豪雨に遭遇したら

頑丈な建物に入る

気象情報を確認する

地下・水辺から離れる

雷について

雷の前兆

真っ黒な雲が近づいてきた

雷鳴が聞こえる

稲光が見える

雷から安全な場所に避難する

鉄筋コンクリート

自動車

避雷小屋

屋外で雷に遭遇したら

保護範囲 45度 4m
最低4m以上離れる

電線の真下 4m

避難できる場所がないときは

頭をなるべく低くしてしゃがむ

耳をふさぐ

爪先立ちでかかとをつけた姿勢を保つ